

審査の結果の要旨

氏名 春田淳志

本研究は、医学教育の多職種連携教育、さらには職種・役割を超えた連携教育：Transprofessional education：TPE において先進的なプログラムの開発とプログラム内における医療専門職と地域住民の変化をエスノグラフィーという手法で明らかにしたものであり、下記の結果を得ている。

1. エスノグラフィーという研究手法を用いて、健康教室を題材とし TPE の概念に基づきプログラムを開発し、医療専門職と地域住民のアウトカムをプログラム評価の枠組みである Kirkpatrick のモデルを援用し明らかにした。そこから個人の知識や行動の変化だけでなく、病院や地域全体が変わる可能性を示唆するデータが示された。
2. 上記のプログラムにおいて、医療専門職は他の職種を知らないという単一専門職：Uniprofessional の価値観や見解から、多職種連携教育 Interprofessional education の互いに学びあうという定義に基づくような視点を獲得し、さらには職種・役割を超えて地域住民とパートナーシップが育まれる関係が構築されたことが示された。
3. 上記プログラムにおいて、地域住民も医療専門職と同様に他の地域住民を知らないあるいは階層関係を受容している価値観や見解から、互いに学びあう関係、そして医療専門職とのパートナーシップが育まれる関係が構築されたことが示された。
4. 上記の段階を経た後、医療専門職と地域住民は互いに自身のコミュニティーの中やそれを超えて主体的に連携について実践・伝達するようになり、アドボケーターの役割を担うようになったことが示された。
5. 上記の医療専門職や地域住民は、①プログラム内の Debriefing や Reflection により健康教室の目的/目標を確認したこと、②単一専門職の価値観から学びあうという価値観、そして職種役割を超えたパートナーシップが育まれるような価値観の変化が専門職アイデンティティの変遷と同期していたこと、③その間プログラム参加者が徐々に役割を拡大していたこと、④職種・役割を超えた関係性が強化されていたこと、以上の 4 要素の相互作用で変化が促進されたと考えられた。
6. 上記プロセスの中で、医療専門職と地域住民は「課題の達成に必要とされる行動を系統立てて実行するための能力に対する集団で共有された信念」といった集団効力感を獲得し、境界を越えて自身の地域に対する責任感を共有するようになったという仮説が示された。

以上、本論文は TPE の概念に基づいて開発された教育プログラムにおいて、医療専門職と地域住民の変化を多面的視点から分析することで、個人の変化だけでなく、病院・地域が変化していく経過を明らかにした。また、経時的視点から医療専門職・地域住民共に単一専門職、多職種連携、職種・役割を超えた連携の視点・価値観へと変遷し、連携アドボケーターとして情報を発信するようになったことを明らかにした。このように TPE プログラムのアウトカムを提示するとともに、医療専門職と地域住民の学びプロセスを明らかにし、今後の TPE プログラム開発の貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。